
ほほえみ

眠人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ほほえみ

【Nコード】

N0097B

【作者名】

眠人

【あらすじ】

不倫につかれた主人公が美術館に行く、日常のできごとです。

新潟の、とある美術館で、どこかの有名な美術館の展示をしているというので、行ってみることにした。

よく晴れた、ちょっと暑いぐらいの秋晴れの日。空は高く、雲はぼつりぼつりと見えるくらいだった。

展示物は絵画などではなく、ギリシャあたりの彫刻やエジプトらへんの発掘品だった。あまりそのへんの事情には興味をもたず、ただ純粹に目の保養が目的だった。

神殿の柱や梁にあしらわれた彫刻が、順路に沿って並べられている。

すばらしい肉体美をほこっていたり、慈愛のまなざしをしていたり、神々しさが溢れかえっていた。

しかしわたしには物足りなかった。

まぶしすぎる、と思った。

1年続いた不倫の生活が終わりを迎え、一人になった私にはどれもハメコミ合成のようで、心に落ちてはこない。

それでも歩きつづけていると、ふと一つの彫刻に出会った。首から上だけで、短い説明文がついているだけの、ぞんざいな男性の彫刻。

しかしわたしは目が離せなかった。それまで見てきたものとはまるで違う、穏やかな輝きを放っていた。何か、トン、と心に落ちてきた気がした。

その男性は、笑みを浮かべていた。神々しさや慈愛はまるでなく、ただ、わらっているだけだ。

天気がいい日だったのだろうか、なにかかわいいものでも見つけたのだろうか。

何気ない、日常のほほえみ。

わたしがその男性に目を奪われていると、隣に立つ客も、同じように足を止め、見入っていることに気づいた。

誰もが通り過ぎていく中で、その女性も、わたしと同じものを見ている。

私たちはつい、顔を見合わせてしまった。

少し照れて笑い、そして彼女は言った。

「笑ってますね」

わたしはうん、とうなずいた。

今、わたしたちの心には同じ何かが落ちたに違いない、そう思った。

一度も会ったことがない、そしてまた会うこともないであろうその人と、いま同じものを共有した。

それは、一年かけても不倫の彼と共有できなかったものに違いなかった。

私たちは別れてよかったのだ、と、ようやく納得した。

やがて彼女は後からきた友人につれられて行ってしまった。

外に出ると、夕日になりかけた太陽がやんわりとした橙を放っていた。

伸びをして、あくびをし、そして涙をふきながら、一寸笑った。
いい日だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0097b/>

ほほえみ

2010年12月18日14時17分発行